

Book Review / 書評

Deniz Göktürk, Levent Soysal and Ipek Türeli, eds.

Orienting Istanbul: Cultural Capital of Europe?

London and New York: Routledge, 2010. 336 pp.

園中 曜子 / SONONAKA Yoko

本書はトルコ共和国イスタンブルを対象とし、グローバル化と新自由主義経済が進行する中で、都市空間とそこに住まう人々の感情を考察した論文集である。これまでトルコ共和国の都市研究としては、アンカラやイスタンブルを中心に、建築史の観点から共和国設立後の都市を論じたものや、社会学の観点から人口流入の問題を論じたものが多くみられた。1990年代以降は、1980年代の新自由主義経済の導入と、それに伴うイスタンブルの都市空間の劇的な変容の中で、そこに住まう人々の生活がどのように変容していくのかに関心が向けられた。これらの研究成果を総合したものが、イスタンブルの中流階級の生活の変容に注目した論文集であった [Keyder 1999]。そして2000年代以降は、グローバル化と市場経済を支持する公正発展党による単独政権の樹立により都市空間の変容がさらに加速し、都市空間と住民の生活の変化を中心に多くの事例研究がなされてきた。

本書はイスタンブルが2010年、欧州文化首都に選定されたことを受けて、トルコ国内外の23人の研究者が集まり、人類学、社会学、建築学、政治学、美術史などの多彩なディシプリンのもと、2005年から意見の交換を行うことによって編まれたものである。本書はこれまでの事例研究の隙間を埋め、現在の都市空間の全体像を描き出そうとする試みであるほか、現象の背後にある人々の感情に目を向けようと試みる点で、これまでの書とは一線を画すものとなっている。著者はイスタンブルの都市空間を、文化の豊かさや民族の多様性を示すことにより外貨をひきつけ、EU加盟につな

げようとする経済界、政権などの思惑と、そこに住まう人々の感情のせめぎあいの場として捉える。そして、文化遺産の再生、現代アートとビエンナーレ、文化のヨーロッパ化 (Europeanization) という独自のテーマを選択することにより、その根底に流れる諸団体の思惑を描き出そうと努めるほか、「文化的親密さ」(cultural intimacy) [Herzfeld 1997] という概念を用い、イスタンブルに住まう人々が共通して抱く感情に言及しようとする。

本書の構成は、序文と結語を除いた17の論文からなる。全体は五つのパートに分けられ、それぞれのパートの前には、そのパートが本書全体に対して果たす役割が述べられている。以下、本書の内容を概観していく。序文においては、本書の3人の編集者、映像学に携わるデニズ・ギョクテュルク (Deniz Göktürk) とレヴァント・ソイサル (Levent Soysal)、美術史、建築史に携わるイペック・テュレリ (Ipek Türeli) により、イスタンブルの都市空間が脱工業化し、文化の資源化によって経済成長を遂げようと試みる経緯が述べられるほか、本書の議論の射程が述べられる。

第1部「グローバル化への道」では、二つの論文を通して本書の課題が述べられる。第1章ではマクロ社会学の視点から、1980年代以降イスタンブルが急激に発展を遂げてきた一方、その「略式のグローバル化」(informal globalization) [Keyder 1999] が交通渋滞や人口過多などの問題を引き起こしていることが述べられる。続く第2章では、トルコの代表作家オルハン・パムクがその自伝的小説『イスタンブル』の中で、そこに住まう人々が共通して持っているとした「憂愁」(hüzün) の感情と、一時的滞在者が感じる「幸福感」(keyif) の感情が対照的に述べられる。そして、イスタンブルに生活の拠点を置きながらも他の都市との行き来を続ける著者は、自らが憂愁と幸福感の両方の感情を抱いていることを発見する。本書の著者はいずれも、イスタンブルとその他の都市との行き来を続けながら生活を送る者である。それゆえ内部の視線と外部の視線の両方を持ち、イスタンブルを見ることが出来る。著者は本書の課題は、現在のイスタンブルの抱える問題を内部(住民としての視点)と外部(一定の距離を置き、他の都市と比べる視点)の両方から描き出し、問題解決のための新たな視座を示すことであると述べる。

続く第2部から第5部は、事例研究である。第2部「文化遺産と再生に関する議論」は4章からなり、文化遺産の修復と再生、新たな施設の建設を通して、文化と民族の多様性を示そうとする諸団体の思惑と住民とのせめぎあいが述べられる。個々の事例としては、ジェントリフィケーションをめぐる行政と住民の衝突や、歴史地区に移住させられた職人の生活、スーフィー教団の施設やマドラサを復興することにより、人々にオスマン帝国時代のイスラームにノスタルジアを抱かせようとする宗教団体の試みが述べられる。さらにギリシア時代の遺跡まで再現されたミニチュア公園を通して、

イスタンブールにおける民族の多様性とヨーロッパ文化との共通性を示そうとする行政の試みが述べられる。

第3部「メディアに表象される都市」は4章からなり、映画やドキュメンタリーが、そこに住まう人々にとって都市がどのように現象するかを表す媒体として用いられる。まず、イスタンブールに映画が伝来した過程が述べられた後、映画やドキュメンタリーの描写から、住民の「憂愁」の感情や、外部からのイスタンブールへの憧れの感情と自分自身の感情との相違を皮肉る住民の姿などが描き出される。続く第4部「都市の中のアート」は3章からなり、イスタンブールを代表するアートイベント、イスタンブール・ビエンナーレを題材に、現代アートの都市空間での役割が論じられる。まず、現代アートを用いてイスタンブールの近代を再考しようと呼びかけるキュレーターの論文と、出展される作品のほとんどが1980年代以降に制作されたものであるというビエンナーレの在り方に疑問を投げかける研究者の論文が対照的に配置される。つづいて、イスタンブールのアートイベントが都市の公共空間を利用して行われるため、住民にとっては目にしやすいものとなっている一方、都市発展の手段として資源化されていることや、過去の文化とはかけ離れたものであることが述べられる。

第5部「ヨーロッパの首都？」は4章からなり、欧州文化首都プログラムを題材に、イスタンブールにおける文化のヨーロッパ化が論じられる。まず、欧州文化首都プログラムの理念と、イスタンブールが選定された経緯が論じられ、つづいて市民団体中心の企画を推奨するEUのプログラムを遂行しようとする実行委員会の挫折と苦闘が述べられる。さらに、「多様性の中の統合」というEUのモットーに従って、ユダヤ人コミュニティを用いて民族の多様性を示そうとする行政の思惑が描かれた後、最終章において、ヨーロッパ風の作法を身に付け、没個性化した未来のイスタンブールの都市空間が、皮肉をこめて予想される。

最後に、結語である。結語において著者は、自身の現在のフィールドであるローマの都市空間 [Herzfeld 2009] と比較しつつ、全体の総括を行う。イスタンブールの「文化的親密さ」は第1部で考察したように、オスマン帝国が崩壊したところから生じた「憂愁」の感情にあった。しかしそこに住まう人々は、第3部で考察したように、外部の人々はその「幸福感」に期待する視線も感じ取っている。行政は、外部の人々にとってさらに魅力的な都市とするために、第2部で考察したような文化遺産の修復と再生を行う。しかし、それはイスタンブールの歴史的な過去の保全ではない。汚れを取り除かれ、ピクチャレスクに脚色された過去は、第4部で考察された現代アートの作品のように、その住民にとっては新たに創設された現在でしかなく、疎外感を感じるものである。このような文化遺産の修復に対する情熱は、ローマの都市空間にもみられるものである。しかしローマとイスタンブールは、その他の点では違いを示す。イスタンブールの都市空

間には、オスマン帝国への「憂愁」が宿っている。著者はイスタンブルの都市空間が現在のように即席にヨーロッパ化することは、住民の感情からかけ離れたものであるために、常に軋轢が生じると指摘する。文化の豊かさと民族の多様性をことさら示そうとしなくても、それは、アジア大陸とヨーロッパ大陸の両方にまたがるイスタンブルの土地性に固有のものである。著者は、現在のイスタンブルに求められているのは、外部からの期待に応えるイメージを創出しようと努めるのではなく、イスタンブルの土地性を概念化することではないかと述べる。

以上が本書の内容である。本書の意義は、現象の背後にある人々の感情に目を向けることで、都市空間をめぐる文化の政治学を描き出したことである。また、多彩なディシプリンから書かれた本書の17本の論文は、マクロとミクロ、内と外の両方からイスタンブルの都市空間をとらえ、万華鏡のように変奏する表象の背後にあるものを描き出している。些か残念であったのは、都市空間への住民の能動的な働きかけの事例として、第2部において行政と衝突する住民の姿が、第3部において住民参加型のドキュメンタリーが示されるのみであったことである。大都市の人類学は参与するフィールドが見えにくいという点で困難を伴うが、多民族が暮らすイスタンブルの都市空間において、個々の住民やコミュニティの能動的な働きかけに着目することが、本書においてイスタンブルの都市空間の次の課題として提示された、その土地性の理解にとって有益であると思われる。

参考文献

- Herzfeld, Michael. 1997. *Cultural Intimacy: Social Poetics in the Nation-State*. New York: Routledge.
- . 2009. *Evicted from Eternity: The Restructuring of Modern Rome*. Chicago :University of Chicago Press.
- Keyder, Çağlar. 1999. *Istanbul: Between the Global and Local*. Istanbul :Rowman and Littlefield Publishers.

Graduate Studies of Asian and African Area Studies, Kyoto University
 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程